

ママが突然俺に言った　ママのパンツ食べてみない??

ある日の夕方俺が仕事から帰ると、ママが玄関まで駆け寄ってきて俺にこう言った。

「ママのパンツに興味ない？よければ食べてみない？ユキジ」

そりゃママっていうか女性自体に興味津々な年頃の俺だけど・・・・・・・・。

少しモジモジしながらも俺は少し斜め下を向いて俯き答えた。

「もちろん見たいよ・・・」

ママはキャピキャピと嬉しそうに続けた。

「じゃあ！！じゃあさっ！！！！ママの下着の一覧を見せてあげるわ！！二階の寝室にあるから！！」

突然のことで驚きはしたが、

俺はママと階段を上がりママの寝室へ。

時刻は夕方である。平日。

引き出しを開けるとたくさんの下着が綺麗にたたまれて並んでいた。

ママのコレクションの一つらしい。

・・・・・・・・・・だけど、数としては他の家の奥さんとか学生の女の子よりも少ないくらいだと思う。少数精鋭ということ

だろうか。

「でもさ、今穿いている下着をやっぱりみたいよね、ユキジ」

ママは頬を赤く染めて嬉しそうに言った。

ここで急遽、ママと俺との下着見せ合いっこゲームが突如スタートした。

へんてこなシュールな状況。

「ユキジの下着はどこで買ったの??？」

ママはまだ衣服のまま。

ジーパン姿のママは股間に手を当てながらつぶやく。

固いジーパンの股間を指でさすっている。

オナニーだ。

近くの格安洋服屋だけど・・・・・・・・・・

「安物ですませてるのね。へえ・・・・・・・・」

ママはズボンを下ろした俺の下着を見て言った。

「すごい!!!密着型ブリーフじゃない……」

自分でもなんだか、激しくもっさりしている。

ママは少し寂しそうに唇に中指を押し当てた。

……食べちゃいたい……。

プクッと柔らかな唇が見える。

ママの吐息が漏れた。

今、状況としてはママとママの寝室で二人きり。

奇妙なことが一つあるとすれば、何故か二人とも裸に下着姿
だということ。

ママはソファのすぐそば。

俺は入り口のドアのすぐ前。

隣には鉢植えに植木が植えてある。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)